首里の家

～母と長く住まう家～

建　築　概　要

所　在　地：那覇市首里
家族構成　：娘＋母
用途地域　：第一種低層住居地域
構　　造　：WRC造（壁式構造）
敷地面積　：２８７．１４㎡（約８７坪）
建築面積　：　８９．７８㎡（約２７坪）
１Ｆ床面積：　６７．２３㎡（約２０坪）
Ｂ１床面積：　５７．６０㎡（約１７坪）
延べ床面積：１２４．８３㎡（約３７坪）
工　　期：２０１４年５月～１２月

伊良波　朝義　　㈲義空間設計工房

プロフィール
１９９０年　琉球大学工学部建設工学科卒業
１９９０年～９６年　㈱内井昭蔵建築設計事務所
１９９７年　㈲義空間設計工房設立
２０１４年　琉球大学工学部　非常勤講師

上地　結華　　㈲義空間設計工房

プロフィール
１９９０年　沖縄県伊江村出身
２００９年　県立首里高等学校卒業
２０１１年　専修学校ＩＤＡ空間デザイン科卒業
２０１１年　（有）義空間設計工房入社

コ　ン　セ　プ　ト

敷地は前面道路から3m下がり、隣地はさらに敷地から5m下がったかなりの高低差に位置する。また、敷地南側には真嘉比川が流れ、「く」の字型の敷地形状をしている。

歪な敷地を安全で無駄なく、かつローコストでつくること。また、長年離れて暮らしていた母親と同居するにあたり、親の生活リズムをくずすことなく高齢者に配慮したつくりや、海外から時たま遊びに来る友人にくつろいでもらえる環境づくりが求められた。

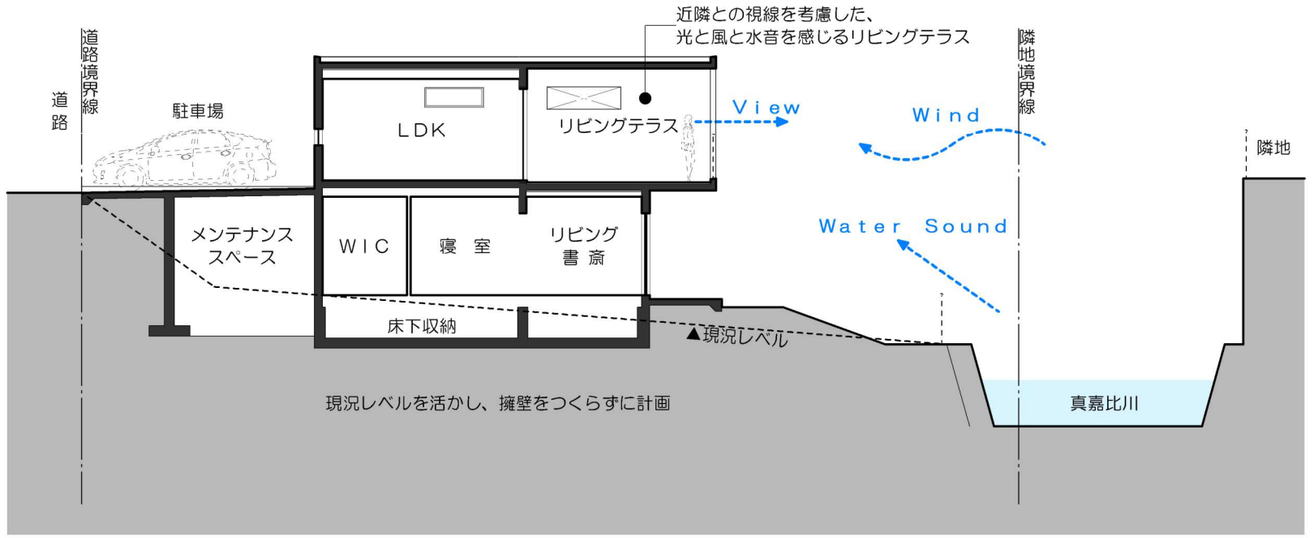
計画するに当たり、特異な敷地特性を抽出し、周辺は昔ながらの低層住宅地であることや高低差、川からの涼風と水音等を取り込むこと。高齢の母親と一定の距離感を保ちながらお互いの生活を尊重しやすいように、ちょうどいい広さや動線計画等をキーワードに計画を進めた。

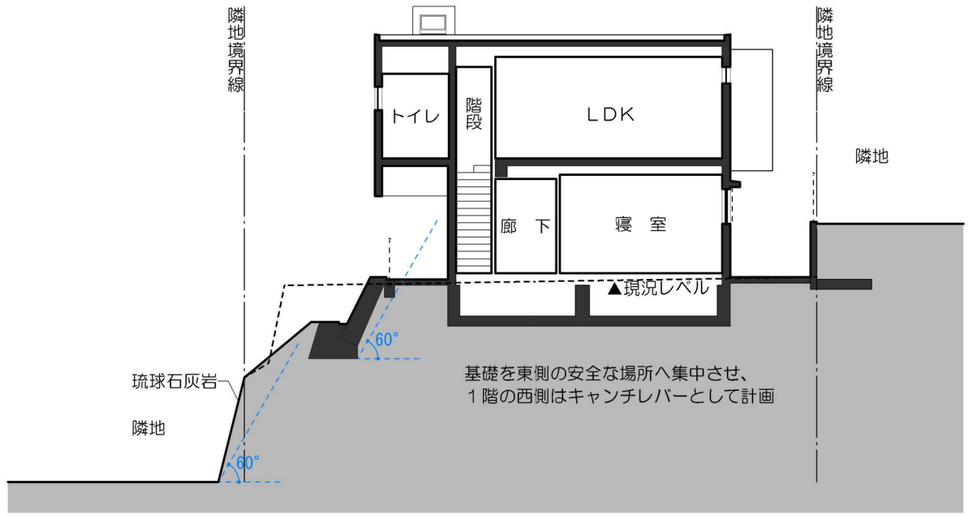
擁壁をつくらず、大きな造成をしないように現況地盤高さへ地下階を設けることにより、前面道路からは平屋の高さとし、１階と前面道路との高さをそろえ、スムーズにアプローチできるつくりとした。

１階は母親が主として利用する生活の場として、また家族団らんの場として、広すぎず狭すぎず、必要に応じ空間を広げることができるリビングテラスを併設し、ちょうどいい広さとした。リビングテラスは川からの涼風が心地よく、水音を聴きながらくつろぐことのできる、内でも外でもない空間として様々な生活シーンに潤いを与えてくれる。母の寝室からはＷＩＣ経由で洗面室、トイレ、浴室へと曲がりが無く一直線で行けるように、ちょうどいい動線とした。

地階は玄関ホール脇の階段を利用することで１階の居室を通らずにアクセスすることができ、母の就寝時でも気を遣わずに出入りできる。ミニキッチンやサニタリールーム、トイレを併設しているので、寝室のパーティションを仕切ればリビング・書斎がゲストルームに早変わりする仕掛けとした。

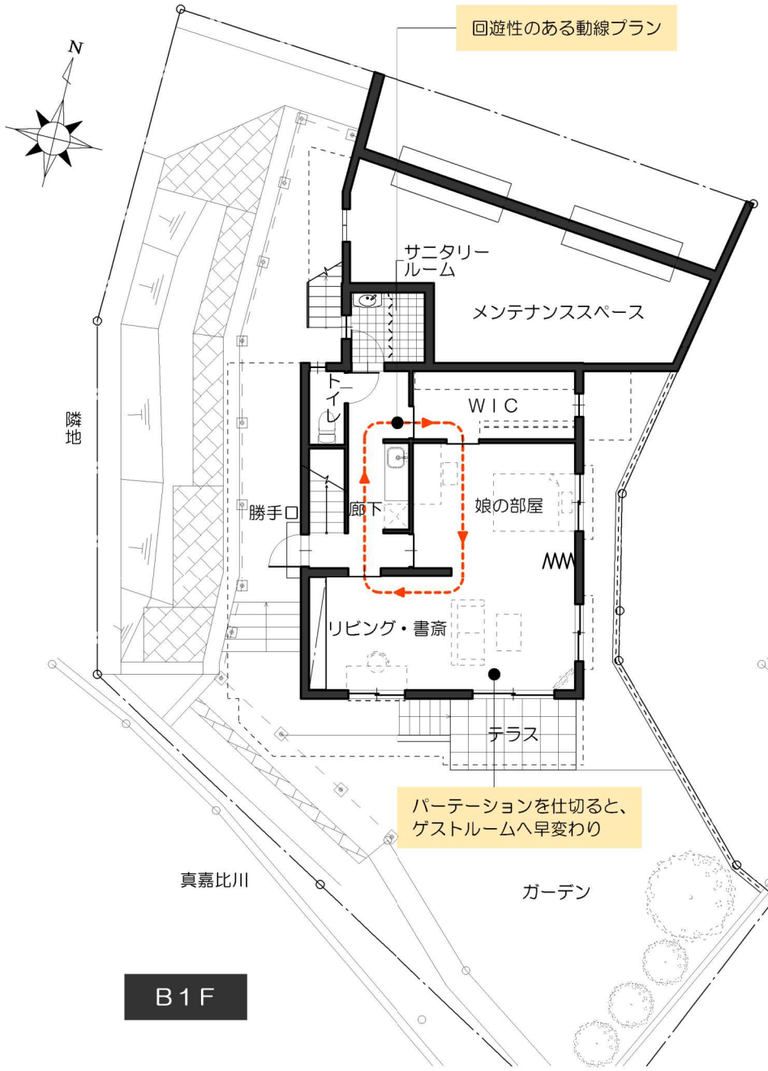
敷地の特性を活かし、親子の居住環境を階層で分けつつ、母と娘のちょうどいい距離感を生み出し、お互いの生活を満喫しながら長く住まえることができる住宅の提案である。



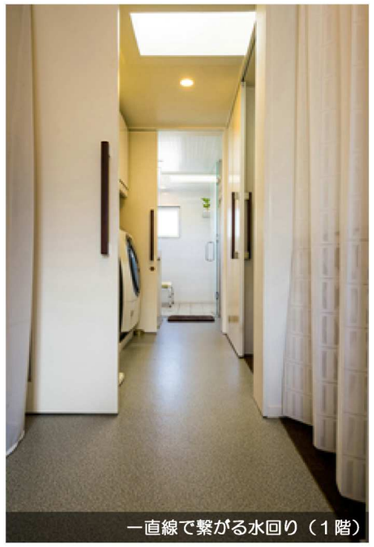


ＬＤＫと繋がるリビングテラス、半屋外空間で雨天時も利用可能（１階）

２人並んで調理も出来る広々したキッチン（１階）



回遊性のある家事動線（１階）



一直線で繋がる水回り（１階）

ゲストルームにもなるリビング・書斎、庭に面して明るく・風通しが良い（地階）

廊下に設置したミニキッチン（地階）